

令和5年度 大阪府立枚方支援学校  
第1回学校運営協議会 記録

1. 日時 令和5年6月14日(水) 15:20~17:00

2. 場所 大阪府立枚方支援学校 会議室

3. 出席者 会長 荒木 寛巳(森ノ宮医療大学 医療技術学部 鍼灸学科 教授)  
副会長 三谷 幸生(枚方市立ひらかたこども発達支援センター 所長)  
委員 中口 武(桜丘校区コミュニティー協議会 会長)  
委員 吉田 潤(社会福祉法人・医療法人 大潤会 理事長  
大阪府立枚方支援学校学校医)  
委員 中岡 将基(枚方市障害者就業・生活支援センター センター長)  
校長 西村 誠三  
准校長 村上 哲也  
**事務局**  
教頭 水川 久美子、佐藤 賢太  
事務長 奥村 真千子  
首席 植木 敏幸(統括)、神庭 真弓、  
藤原 健太(教務主任)、和田 恵子(中学部主事)  
小学部主事 筒井 香菜子

4. 次第 (1) 校長、准校長挨拶  
(2) 委員紹介、会長・副会長選出  
(3) 事務局紹介  
(4) 学校運営協議会実施要項について  
(5) 令和5年度使用教科書について  
(6) 令和5年度学校経営計画について  
(7) 准校長挨拶

5. 協議内容

(1) 令和5年度学校経営計画(小学部・中学部)

【働き方改革の推進について】

(委員から)

働き方改革に関して、意見を交換したい。

(委員から)

学校は物ではなく、人と関わる仕事のため、改革には難しい面がある。仕事を残して早く帰ることが、先生方にはストレスとなることもある。開校当初からは変わってきていると思うが、理想の形にすることは、まだなかなか難しいと感じている。

(委員から)

私の職場においても、同じような状況がある。業務の均一化、平準化等の対策を実施しているが、画期的な解決策はない。仕事の分担が偏らないよう、声をかけている。

(委員から)

ヘルプサインを出しやすい環境を作っている。また、誰でもできる仕事については分担を心掛けている。特定の人に偏る仕事にならないようにしているが、人手不足もあり難しい現状がある。

(学校回答)

開校当初は全体の半分以上、6～7割が講師だった。講師の方には、新卒や長期間現場を離れていた人たちが多く、必然的に大きな責任が生じる仕事は教諭が担うことになり、負担度は高かった。それが徐々に教諭の率が高まったことで、業務の平準化につながってきている。開校当初は、0から作ってきたが、今は業務の質を高めることにシフトしてきている。

(委員から)

教員不足について、大学にも問い合わせが入る。市町村については、教育委員会が講師を探す。府立学校については、各校の教頭が探す状況にある。ここを改善しないと、何ともできない。

(委員から)

保育園や小学校も同じ。いつでも教員を補充できる状況にしておかないといけない。

(委員から)

教員数を増やしてもらうことは大切だが、教員のなり手がいない現状もある。厳しい現状の中だが、枚方支援として、頑張って取り組んでもらいたい。

#### 【地域に開かれた学校づくりについて】

(委員から)

先日の運動会、野菜販売等、コロナが落ち着きをみせ、徐々に関わりの場が戻ってきていると感じている。

#### (2) 令和5年度学校経営計画(高等部)

#### 【高等部卒業生の進路について】

(委員から)

最近複数の事業所さんを選ばれるケースが増えているのはなぜか。

(学校回答)

コロナ禍により事業所の閉鎖が相次いだ。そのことにより、選択するのが難しいケースもあった。それぞれの事業所のよさを考えて、複数の事業所を選ぶことになったのではないか。

(委員から)

支援学校の卒業生において、最近の2年間は多いと感じている。

(委員から)

在校時にデイサービスを複数使って週6日通うリズムができていた場合、その継続としての複数利用になっているのではないか。

(学校回答)

その影響かどうかはわからないが、慣れた事業所を望まれるケースもある。

(委員から)

土日に生活介護を利用し、保護者の就労を支えるといったニーズもある。

(委員から)

他校の話聞いていても、卒業後すぐに就職ではなくてもいいと考える傾向がある。子ども達にとって、よりよい生活につながるならよいと思う。うまくつながりを活かしていくのも、子ども達が安心して過ごせる場をつくるうえで大切になってくるだろう。

#### 【ICTの活用、その他の現状について】

(委員から)

ICTの現状は？小学部などで増えているのか。また、療育手帳は持っていないが支援学校に来ている子どもはいるか？

(学校回答)

小学部でのICT利用は増えている。また、療育手帳を持っていない児童も在籍している。手帳を持っておられない方は高等部にもいる。

企業就労・福祉サービス利用をめざすうえで療育手帳取得が難しい場合は、精神障がい者保健福祉手帳の取得、または何らかの診断を受けることを促すケースもある。

(委員から)

枚方市で不登校は増えているのか。

(委員から)

教育センターの方で不登校の子どもの受け皿となる取り組みをしている。

#### 【修正・追記】(会議後に追記)

- ・「就労継続支援B型」と「生活介護」の併用については、枚方市の場合不可である(他市は可能)。枚方市で併用できるのは、「就労継続支援B型」同士あるいは「生活介護」同士の場合に限る。複数を利用される理由で一番大きいのは、事業所の作業内容や生活リズム

ムの違いにおいて選択肢を持って利用できるから。ただし一部に、放課後等デイサービスのように土曜日にも利用したいので、日中一時等を土曜日に利用される場合もある。

## 6. まとめ

(委員から)

これだけ児童生徒が増えてきたら、教室は本当に足りないと思う。

厳しい中だが、何とかこれからも頑張っていっていただきたい。

第2回学校運営協議会は、令和5年11月24日（金）、  
第3回学校運営協議会は、令和6年2月28日（水）を予定